

令和7（2025）年度8月「歳時記」

8月はまさに盛夏。蝉の声が暑さを告げ、青空に浮かぶ雲が季節を彩ります。暑さで有名な加計では県内最高気温をしばしば記録します。それでも、夕方になると涼風が頬を撫で、夏祭や花火大会などの催しと共に、稲の実りやお盆などの行事が人々の心を潤します。人々の知恵と自然の営みが共鳴し、一瞬の情景に古今の響きが重なり、夏の終わりを予感させます。今月は、漢文を取り上げます。漢文ですから元は漢字ばかりで書かれた文章ですが、ここでは中学校1年生の教科書に従って「書き下し文」で表記しています。

<書き下し文>

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。
之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陷すもの莫きなり。」と。
又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が矛の利なること、物に於いて陷さざる無きなり。」と。
或るひと曰はく、「子の矛を以て、子の盾を陷さば何如。」と。
其の人、応ふること能はざるなり。

<現代語訳>

楚の国の人で、盾と矛を売る者がいた。
盾をほめて、「私の盾の堅いことといったら、つき通せるものはない。」と言った。
また、矛をほめて、「私の矛の鋭いことといったら、どんなものでも突き通せないものはない。」と言った。
ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通すとどうなるのかね。」と尋ねた。
その人は答えることができなかったのである。

お隣^{となり}の国^{くに}、中国^{ちゅうごく}の戦国時代^{せんごくじだい}の作品^{さくひん}「韓非子^{かんぴし}」からの出典^{しゅってん}です。ある商人^{しょうにん}が「どんな矛盾^{ぼこふせ}でも防^{せん}げる」と宣伝^{せんでん}しつつ「どんな盾^{たて}でも突^つき通^{とお}せる」とも自信^{じしん}たっぷりに話^{はな}し、客^{きやく}が「その矛盾^{ぼこ}でこの盾^{たて}を突^ついたらどうなるか」と問^とうと答^{こた}えられなかったことから、一方^{いっぽう}が正^{ただ}しければ他方^{たほう}が誤^{あやま}りになることが「矛盾^{むじゆん}」と呼ば^よれるようになりました。現代^{げんだい}では、意見^{いけん}や行動^{こうどう}、文章^{ぶんしょう}の前提^{ぜんてい}と結論^{けつろん}が合^あわないう場合^{ばあい}に用^{もち}いられています。

話し合^{はな}いや文^あ章^{ぶんしょう}のなかで矛盾^{むじゆん}を見^みつける練^{れん}習^{しゅう}をすることで、より論理^{ろんりてき}的に考^{かんが}える力^{ちから}が身^みにつきます。小^{しょう}・中^{ちゅう}学^{がく}生^{せい}、高^{こう}校^{こう}生^{せい}の皆^{みな}さん、学^{がっ}校^{こう}の授^{じゅ}業^{ぎょう}や日^{にち}常^{じょう}生活^{せいかつ}で気^きづいたら遠^{えん}慮^{りょ}せず「矛盾^{むじゆん}」を指^し摘^{てき}してみましょう。

「矛盾^{むじゆん}」のように、中国^{ちゅうごく}の昔^{むかし}話^{はなし}や歴^{れき}史^し上^{じょう}の出来^{でき}事^{こと}、人^{じん}物^{ぶつ}の言^{げん}動^{どう}から生^うまれ たことばを故^こ事^じ成^{せい}語^ごといひます。た^たえ^えば「一^{いっ}石^{せき}二^に鳥^{ちょう}」は一^{ひと}つ^{こう}の行^{こう}動^{どう}で二^{ふた}つ^たの利^り益^{えき}を^え得^いる意^い味^みです。「画^が竜^{りゅう}点^{てん}睛^{せい}」は、絵^えの竜^{りゅう}に目^めを入^いれて完^{かん}成^{せい}さ^こせる故^こ事^じから、大^{だい}事^じな仕^し上^あげや肝^{かん}心^{じん}な部^ぶ分^{ぶん}を表^{あらわ}し^ます。故^こ事^じ成^{せい}語^ごは短^{みじ}いこ^ことばで深^{ふか}い物^{もの}語^{がたり}を^{つた}え^えら^れるの^のが魅^み力^{りき}です。作^{さく}文^{ぶん}やス^すピ^ぴー^ちで使^{つか}うと説^{せつ}得^{とく}力^{りき}や表^{ひょう}現^{げん}の幅^{はば}が広^{ひろ}が^がります。

小^{しょう}・中^{ちゅう}学^{がく}生^{せい}、高^{こう}校^{こう}生^{せい}の皆^{みな}さんには多^{おほ}くの「故^こ事^じ成^{せい}語^ご」に触^ふれ、い^いろ^ろい^ろな場^ば面^{めん}で積^{せき}極^{ごく}的^{てき}に^{つか}ってほ^{おち}しいと思^{おも}ひます。

それでは練^{れん}習^{しゅう}問^{もん}題^{だい}です。皆^{みな}さんぜ^ぜひチャ^{ちや}レ^れン^んジ^じし^してみ^みてく^くだ^ださい。

* 練^{れん}習^{しゅう}問^{もん}題^{だい}

- 1 波^な下^{みか}線^{せん}部^ぶ「利^りなること」とありま^りすが、こ^この場^ば合^{あい}の「利^り」と^{おな}じ意^い味^みで「利^り」が^{つか}使^{つか}わ^れてい^いる熟^{じゆく}語^ごを次^{つぎ}から選^{えら}ん^かで書^かきま^かしょう。
(鋭^{えい}利^り 営^{えい}利^り 利^り益^{えき} 利^り率^{りつ})
- 2 波^な下^{みか}線^{せん}部^ぶ「子^し」とは、ど^いんな意^い味^みで^{げんだい}語^ご訳^{やく}の中^{なか}から3字^じで抜^ぬき出^だして書^かきま^かしょう。
- 3 波^な下^{みか}線^{せん}部^ぶ「その人^{ひと}は答^{こた}え^えるこ^ことが^かで^かき^かな^なかつた」のは、な^なぜで^ぜすか。
30字^じ以^い内^{ない}で書^かきま^かしょう。

＜解答例＞

1 鋭利

2 あなた

3 ＜例＞自分の話のつじつまが合わない点を、ある人に指摘されたから。

あ き おおたちょうきょういくいいんかい きょういくちょう おおの まさと
安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人